

患者支援へシームレスな連携

PHC

PHCは、薬局業務の効率化と患者満足度の向上に貢献できる多彩な電子薬歴システムや患者サービスを揃えている。

クラウド薬歴「DrugstarLead」はタブレットなどのモバイル端末を用いて服薬指導から薬歴承認までの一連の業務を効率的に完結できる、薬剤師の対人業務支援ツールだ。薬の変更点を印刷して、患者とのコミュニケーションを促進し、薬識向上と服薬継続を支援する機能や、患者自身のスマートフォンを使って、非接触で問診アンケート(先確認ヒアリング)が提供できる機能を備えている。加えて、オンプレミスとクラウドがリアルタイムに同期するハイブリッド型の特徴を生かして、いつでも、どこでも、必要なときに場所を選ばず、タブレット・スマホから薬歴簿の参照・入力・承認が可能に

なっている。

電子薬歴システム「PharnesV-MX」は、シンプルで分かりやすい電子薬歴だ。レセプトコンピューターと薬歴をシームレスに一体化した電子薬歴システムで、患者の薬歴表紙、監査情報、過去薬歴など必要な情報を1画面で確認でき、処方監査、薬歴作成がスムーズに行える。オプションの「リモート薬歴ソフト」を使用すれば時間外、在宅など、薬局の外からでも薬歴の参照や入力もできる。薬局内のノートPCを持ち出して、いつも通りのPharnesのクライアントとして、処方薬に関するチェックや添付文書の確認などのデータベース含め、薬局内と同じように使うことができる。

「DrugstarPrime」は先確認・先指導に取り組むための業務効率化と、患者のQOL向上をテーマとした服薬ア



ドヒアランスの向上に取り組む薬剤師を支援する高性能の電子薬歴システムだ。薬剤師のマネジメントによる薬物治療の最適化と、多職種との効率的な情報共有をサポートする。

ヘルスケア手帳は薬局での待ち時間をなくし、紙のお薬手帳を電子化・進化させることで患者の時間と健康を守るサービスだ。スマホアプリを通じて処方箋受付から服用管理、オンライン服薬指導や配薬・決済、さらには患者へのフォローアップまでを支援するこ

とができる。

患者がアプリで撮影した処方箋画像が薬局に届くことにより、事前に薬を準備ができ、そして患者へ準備完了の通知ができるため、薬局の業務効率向上だけでなく、患者の待ち時間有効活用での満足度向上や、新規の薬局利用者の獲得が見込める。また、服用薬を管理する電子版お薬手帳の機能は、電子薬歴システム「PharnesV-MX」「DrugstarPrime」とのシームレスな連携が可能となっている。

話題の調剤支援システム

関連記事18~22ページ

「マネジメント本部システム」展開

ネグジット総研「調剤くんV7」

ネグジット総研の「調剤くんV7」は、長年レセコン開発に携わり薬局業務を熟知したメーカーだからこその「かかりつけ薬剤師システム」をコンセプトに、薬局業務の効率化や患者服薬指導の向上を目指し、業務に即した画面設計や操作性を実現している。

「V7」では「マニュアルいらず」をテーマとし、見やすい画面構成で誰もが直感的で容易な操作を実現するために、ボタンの配置や大きさ、入力者毎に対応した文字サイズ、ファンクションキー対応操作画面など、使いやすさを追求しニーズの変化に対応した機能進化を果たしている。

窓口業務機能では、処方箋に印字されているバーコードをスキャンするだけで、患者頭書情報、処方箋情報が自

動入力される「2次元バーコードくん」や処方箋画像や患者アンケート、保険証などの画像を調剤録画像に印字されたコードと該当患者を紐づけし自動保存する「らくらく読取くん」などを標準装備している。薬局運営のかゆいところに手が届く機能として、毎年報告が必須となる「施設基準届出調査」に関する集計が1画面で完結する日計画面や未収金・過収金がある患者の確認・調整・領収書印刷に特化した「入金管理ツール」などを実装し、薬局業務効率化を推進している。「電子調剤録」にも対応しており、窓口業務の簡素化、ペーパーレス化に役立っている。

かかりつけ薬剤師の業務を支援する機能では、患者固有の情報や服薬指導

内容など必要な情報を一元的に管理し、個々の患者に応じた服薬指導を支援する管理機能が充実。これまでの医薬品相互作用データベースに加えて、病名・代表病名(適応、禁忌病名、副作用など)や規格違い・類似名称、警告・禁忌情報、アレルギー、改訂指示・医薬品安全性情報(DSU)、小児患者の体表面積によるチェック機能などがあり、ヒヤリ・ハットの防止や服薬指導に役立つ各種データも標準搭載している。

今年度はチェーン薬局向け経営管理システム「マネジメント本部システム」をリリースした。

ダッシュボード表示を採用すること



により、本部で経営者が各店舗の日計、月計、来局患者数およびレセプト請求の実行状況等の経営データを瞬時に確認、閲覧することができる。

また、同システムはNSIPSデータを利用し集計することによりレセプトコンピューターメーカーを問わず導入できることも特徴の一つになっている。クラウドでの運用になるため初期導入コスト、月額利用料も安価で導入できるシステムである。

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)



東京理科大学 薬学部

〒278-8510 野田市山崎二六四一



日本薬科大学

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室一〇二八一



城西大学 薬学部

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一



奥羽大学 薬学部

〒963-8611 郡山市富田町三角堂三一



東北医科薬科大学

〒981-8558 仙台市青葉区小松島四一四



日本薬局協励会

〒151-0053 渋谷区代々木三



日本チェーンドラッグストア協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一

日本ジエネリック製薬協会

〒103-0023 中央区日本橋本町三一